

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日：平成 30 年 11 月 17 日 報告者：片井 明子

行事種別	研究会	行事番号	180019874	
開催日	平成 30 年 11 月 17 日 (土)			
時間	開始	15 時 30 分	終了	17 時 30 分
場所	名古屋市立大学病院 中央診療棟 3 階大ホール (所在地 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地)			
テーマ	「慌てない！自己対照陽性（DAT 陽性）になった時の対応」			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 安城更生病院 山本 喜之 技師			
講師	<p>講演 1「直接抗グロブリン試験の臨床的意義と検査の進め方」 春日井市民病院 神野 洋彰 技師</p> <p>講演 2「自己対照陽性の症例について」 日本赤十字 東海北陸ブロック血液センター 加藤 静帆 技師</p> <p>講演 3「多発性骨髄腫治療薬（抗 CD38）投与患者の輸血検査と対応」 JA 愛知厚生連 海南病院 沖 かずよ 技師</p>			
内容	<p>本研究会のテーマは「慌てない！自己対照陽性（DAT 陽性）になった時の対応」ということで、講演 1「直接抗グロブリン試験の臨床的意義と検査の進め方」では DAT 陽性となるときの原因、臨床症状、体内での抗体や補体の働き、またそれが溶血に繋がっていくその機序についての総論的な講義をして頂いた。講演 2「自己対照陽性の症例について」では、自己対照陽性の 4 症例をもとに、その対応方法を丁寧に解説して頂いた。最近厚労省より承認された多発性骨髄腫治療薬（抗 CD38）は輸血検査に影響があり、輸血・細胞治療学会 HP に対応について記載がある。新たに試薬を購入する必要性、投与患者の把握など検査のみでなく事務的な対応も必要になり、各病院で運用に工夫が必要である。講演 3「多発性骨髄腫治療薬（抗 CD38）投与患者の輸血検査と対応」では、多発性骨髄腫治療薬投与患者への対応（試薬新規購入などの事務的対応、投与患者の把握と情報共有、緊急時の対応）について講演して頂いた。自己対照陽性（DAT 陽性）になった時、慌てずその原因を考えることで、問題解決方法を導くために、各施設での対応に参考になる内容であり有意義な研究会であった。</p>			
参加者	総数：125 名（会員 121 名、県外会員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 4 名、学生 0 名、その他 0 名）			
共催、後援など				